

「棺」ではない

窪島誠一郎

ここに建っている美術館は「棺」のような形だが「棺」ではない。だれもが「祈り」をささげる美術館だがそれは死者への「祈り」ではない。

若者たちがのこした生命の欠片を一つ一つ拾い集めるために私たちが訪れる美術館だ。私たちの貧しい貧しい心の革袋に、かれらのながした涙の雫をためて帰る美術館だ。

若者たちの絵にあふれた春の陽差しには、私たちがうしなってきた五十余年の月日がある。若者たちの絵に息づく灼い友との語らいには、私たちが忘れてきたあの日の哀しくむごい記憶がある。

だからここに建っている美術館は

「棺」のような形をしていても「棺」ではない。だれもが「祈り」をささげて

それは死んだかれらへの「祈り」ではない。

「祈り」をささげるとすれば

かれらの絵の前に生きている

私たちが自身にささげる「祈り」だからだ

〈くはしま・せいいちろう〉、「無言館」館主



無言館とは

太平洋戦争で志半ばで戦死した画学生八〇余名、六〇〇余点の遺作、遺品を収録する。一九七七年から約二〇年にわたり、画家野見山暁治氏と窪島誠一郎氏が全国各地で収集、一九九七年、全国三八〇〇人の篤志家の寄付と上田市の土地提供により開館。

住所…長野県上田市古安曾字山王山3462

JR長野新幹線上田駅より上田交通別所線塩田町駅下車、バス一〇分。年中無休。

〈お知らせ〉

無言館館主窪島誠一郎氏のご好意により、本号から当分の間、表紙に無言館所蔵の作品写真を使わせて頂くことになりました。

(編集部)



表紙絵画の作者

西岡健児郎(にしおか・けんじろう) 大正六年七月六日、高知県に小学校校長の長男として生まれる。昭和十一年、県立高知師範学校卒業、東京高等師範学校美術専攻科に入学。同十四年同校卒業、東京文理大学(現・筑波大学)心理学科に入学。同十八年十二月、在学中に篠戸せつと結婚。同十九年三月二日応召。西部第三四部隊所属。三月十五日、機関銃の分解訓練中に銃身で頭部打撲、脳底骨折にて死亡。享年二六歳。